

第2学年国語科学習指導案

単元名

フォトストーリーを作って紹介しよう～読み手に考えさせる文章を書く～

教材名 「小さな労働者」 ラッセル・フリードマン 千葉茂樹・訳（東京書籍「新しい国語2」）

1 単元について

佐賀県の中学2年生の実態として、平成23年度佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、「書くこと」について課題が多いことが分かった。特に「取り上げた事実や事柄、課題についての自分の考えを明確にして書く」ことを問う設問の無解答率が他の設問の無解答率を大きく上回っており、自分の考えの形成については、特に留意してその課題の解決に取り組む必要があると考える。

生徒は1年生の「分かりやすく書こう」において、伝えたい事実や事柄を相手に報告したり、記録したりするための書き方について学んでいる。また、「根拠を示して書こう」では、相手を説得するための書き方について学習している。しかし、相手や目的に応じて自分の考えを表現する機会が実生活の中で限られており、定着が難しい。

本教材「小さな労働者」は、20世紀初めのアメリカにおいて活動したルイス・ハインという人物について書かれた文章である。過酷な労働を強いられていた子どもたちを救うためにハインが用いた表現方法がフォトストーリーである。フォトストーリーとは写真と文章を効果的に組み合わせた表現方法であり、画像と文字情報を目的に合わせて再構成したものである。ハインが自分の考えを社会に訴える手段として写真と文字情報の効果的な組み合わせを工夫したことを学べる本教材は、相手や目的に応じて自分の考えを伝えるための情報の伝え方について学習するために適した教材であると考えられる。

そこで本単元では、「書くこと」の学習に重点をおき、画像と組み合わせる文字情報の効果的な書き方を学ばせたい。社会生活の中から身近な問題について呼びかけるフォトストーリーを作ること（B書くこと(2)イ）を言語活動として設定し、この言語活動を通して、日常生活や社会生活の中から課題を見つけ、伝えたいことを相手に効果的に伝えるために表現を工夫しようとする態度や表現する能力を身に付けさせることがねらいである。その際、スモールステップで学習活動を明確に示したワークシート等の資料を用いることで、一人一人の言語能力に応じて言語活動を充実させるようにしたい。

2 単元の目標

- (1) フォトストーリーという表現方法に関心をもち、その方法を生かして自分の考えを書こうとする。
- (2) 自分の伝えたいことを相手に効果的に伝えるために表現を工夫して書くことができる。
- (3) 相手や目的に応じて文章の形態に違いがあることを理解して書くことができる。

3 単元の言語活動

本単元では「書くこと」の力を身に付けさせるために、学習指導要領「B書くこと」の(2)に位置付けられている言語活動例の「イ 多様な考えができる事柄について、立場を決めて意見を述べる文章を書くこと」を基に、フォトストーリーを言語活動として取り入れる。このことを通して、身近な問題に目を向け、読み手に考えさせる文章を書く力を育てたい。

4 単元の評価規準 () 内は該当する指導事項等の記号

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
①フォトストーリーという表現方法に関心をもち、その方法を生かして自分の考えを書こうとしている。	①自分の伝えたいことを相手に効果的に伝えるために、写真に組み合わせる文章を、読み手に考えさせるように工夫して書いている。(ウ)	①フォトストーリーという表現方法の特徴を理解して書いている。(イ(ウ))

5 指導と評価の計画(全4時間)

次	時間	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法
一	1	<p>1 これまで読んだフォトストーリーを想起し、フォトストーリーがどのようなものかを確認める。</p> <p>2 教材文を読み、フォトストーリーがどのようにして生まれたかを知り、写真と文章を組み合わせた表現方法の効果について考える。</p> <p>3 ワークシート①にある4枚の写真の中から1枚の写真を選び、それに組み合わせる文章を書いて読み手に考えさせたいことを考えさせることができたかどうかを確認めるモデル学習を行う。</p> <p>4 学習課題「フォトストーリーを作って紹介し、読み手に考えさせる文章を書く力を付けよう」を設定する。</p>	<p>○公害や環境問題などの社会問題について訴えるフォトストーリーを数冊提示して、写真と文章の組み合わせで表現したものであることを確かめさせる。</p> <p>○写真と文章が情報を補い合って、読み手に具体的な事実を直接的に伝えることで、事実の抱える問題に気付かせ、考えさせる効果があることを理解させる。</p> <p>○モデル学習を通して、自分の書く力を認識させる。</p> <p>○学習計画表を配布し、単元の学習に見通しをもたせる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>[国語への関心・意欲・態度] ① ワークシート①, 観察</p> </div>
二	2	<p>5 教材に取り上げられているハインのフォトストーリーを分析し、文章の書き方とその効</p>	<p>○ハインが写真に組み合わせた文章を分析させ、表現の工夫とその効果につい</p>	

	<p>果について考え、交流する。</p> <p>6 ハイน์になったつもりで写真に組み合わせる文章を書き、表現の工夫について確かめる。</p> <p>7 同じ写真を使っていながら、文章の異なる2通りのフォトストーリーを比べ読みして、読み手に考えさせる文章の書き方の工夫について考える。</p> <p>8 ハイน์が写真に組み合わせた文章の工夫や、ワークシート③で比べ読みして分かったことを参考にして、「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」を3つにまとめる。</p>	<p>て生徒が考えたことを整理させる。</p> <p>○ハイน์の表現の工夫を基にして、「マニユエル」の写真に組み合わせる文章を書かせる。</p> <p>○自分の意見を直接的に書いた文章のフォトストーリーと、相手に考えさせるような文章とを組み合わせたフォトストーリーを比較させることで、文章の書き方の効果について実感させる。</p> <p>○生徒一人一人が考えたポイントを出し合わせ、共通するもの同士をまとめさせて最終的に次の3つに整理する。</p> <p>①写真だけでは伝わらない、必要な情報を書く。</p> <p>②自分の意見を直接書かないで読み手に考えさせるような問い掛けをする。</p> <p>③印象に残る表現技法(比喩や反復等)を使う。</p>	<div data-bbox="1129 929 1444 1079" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[言語についての知識・理解・技能] ① ワークシート②</p> </div>
3	<p>9 ワークシート④や自分が準備した資料から写真を3枚選び、読み手に考えさせたいことを決める。</p> <p>10 写真に組み合わせる文章を、読み手に考えさせるような工夫をして書いてフォトストーリーを作る。</p>	<p>○ワークシート④や各自が準備した資料を基に、構想を練らせる。</p> <p>○「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」を想起させる。</p>	<div data-bbox="1129 1825 1444 1975" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[国語への関心・意欲・態度] ① ワークシート⑤, 観察</p> </div>

三	4	<p>11 フォトストーリーを読み合い、内容に対する自分の考えと、フォトストーリーを書いた人の表現の工夫について気付いたことを書く。</p> <p>12 写真と文章の組み合わせ方や表現の工夫についてグループで話し合う。</p> <p>13 単元の学習を振り返る。</p>	<p>○「テーマ」や「伝えたいこと」を考えながら読ませることで、書き手の思いが伝わる文章になっているかを考えさせる。</p> <p>○写真に組み合わせた文章の書き方の工夫についても交流シートを読んだり、意見を出し合わせたりして交流させて考えさせる。</p> <p>○学んだことを振り返らせ、身に付けた力と今後の学習や生活に生かす場面を予想させる。</p>	<div data-bbox="1129 701 1441 801" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[書く能力] ① ワークシート⑤</p> </div>
---	---	---	---	---

6-1 1/4時の指導計画

(1) 目標

文章と写真を組み合わせた表現方法とその効果について考えることができる。

(2) 展開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導入	1 これまで読んだフォトストーリーを想起し、フォトストーリーがどのようなものか確かめる。	数冊のフォトストーリー	○公害や環境問題などの社会問題について訴えるフォトストーリーを数冊提示して、写真と文章の組み合わせで表現したものであることを確かめさせる。	
文章と写真を組み合わせた表現方法とその効果について考えよう。				
展開	2 教材文を読み、フォトストーリーがどのようにして生まれたかを知り、写真と文章を組み合わせた表現方法の効果について考える。 〔手順〕 1) フォトストーリーという表現方法を生み出した人確かめる。 2) ハインの気持ちや考えが分かる表現を手掛かりにして、フォトストーリーを生み出した目的を読み取り、グループで交流して確かめる。 3) フォトストーリーという表現方法の効果について考えて書き、グループで交流して確かめる。	ワークシート①	○フォトストーリーという表現方法について、写真と文章が情報を補い合っ て読み手に具体的な事実を直接的に伝えることで、事実の抱える問題に気付かせ、考えさせる効果があることに気付かせる。 ○一定時間で自分の考えを書かせた後に、グループで交流させる。 ○フォトストーリーという表現方法を生み出したハインの目的からその効果について推し量らせる。	◇教材文から必要な情報を読み取ることに時間が掛かり、ワークシート①に書き込んでいない生徒に対しては、教材文の「フォトストーリー」という語句やハインの考えが分かる語句にマーキングさせ、その前後の文章を読ませて必要な情報を読み取らせる。

<p>3 ワークシート①にある4枚の写真の中から1枚の写真を選び、それに組み合わせる文章を書いて読み手に考えさせたいことを考えさせることができたかどうかを確かめるモデル学習を行う。</p> <p>[手順]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文章を書く【条件】を確かめる。 2) 「目に見えない大切なもの」というテーマと関連付けて、呼びかけるべき問題が考えられる写真を選ぶ。 3) 読み手に考えさせるような文章を書く。 4) グループで交流し、友達を選んだ写真と書いた文章から考えさせられたことを付箋に書いてワークシート①に貼る。 5) 自分の文章を書く力について振り返り、学習課題に結び付ける。 	<p>付箋</p>	<div data-bbox="751 174 1078 546" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>《板書例》</p> <p>「写真と文章を組み合わせた表現方法は、読み手に事実を直接的に伝えることで、問題に気付かせ、考えさせる効果がある。」</p> </div> <p>○モデル学習を通して自分の書く力を認識させ、学習課題の設定へつなぐ。</p> <p>○できるかどうかやってみる学習活動なので、取り組む時間を区切る。</p> <p>◆ワークシート①を電子黒板に映し出し、どこに何が書いてあり、どのようなことに気を付けて学習に取り組めばよいかを視覚的に理解させる。また、【条件】に書かれている言葉をマーキングしながら、重要なことを確認する。</p> <p>《マーキングする言葉》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「目に見えない大切なもの」 ・「読み手に考えさせたいこと」 ・「読み手に考えさせるように表現を工夫して」 <p>○「読み手に考えさせたいこと」を考えさせることができたかどうか、挙手で確認を取り、できた生</p>	<div data-bbox="1123 618 1469 943" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>【関①】 フォトストーリーという表現方法に関心をもち、その方法を生かして自分の考えを書こうとしている。</p> <p>【ワークシート①】</p> <p>【観察】</p> </div> <p>◇写真を選ぶことが滞っている生徒に対しては、それぞれの写真について思いつくことを言わせ、その中から問題として呼び掛けられそうなことを指摘する。</p> <div data-bbox="1123 1420 1469 2033" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p>「フォトストーリー」という表現方法にどのような効果があるのかを書く欄に、読み手に具体的な事実を直接的に伝えることで、事実の抱える問題に気付かせ、考えさせる効果があることを書いており、モデル学習で書いた作品についてグループで意見を述べ合っている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> </div>
---	-----------	--	---

	<p>4 学習課題「フォトストーリーを作って紹介し、読み手に考えさせる文章を書く力を付けよう」を設定する。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>徒にはさらに力を高めることが学習課題となることを理解させる。</p> <p>○学習計画表を配布し、単元の学習に見通しをもたせる。</p> <p>○「身に付けたい力」の欄に「読み手に考えさせる文章を書く力」と記入させる。</p> <p>◆学習計画表を配布した上で、電子黒板に映し出し、実際に指し示しながら使い方を説明する。</p>	<p>フォトストーリーの表現効果について板書を読ませて確かめさせ、モデル学習で写真に組み合わせる文章を書いていない生徒には、友達作品を参考にして書かせる。交流の際に付箋を書いていない生徒には、感想を尋ねて言わせる。</p>
<p>まとめ</p>	<p>5 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表</p>	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○板書を参考にして学んだことを書かせる。</p>	

3 ハイน์になったつもりで、「マニユエル, 5歳 ミシシッピ州の缶詰工場にて」の写真に組み合わせる文章を書き、表現の工夫について確かめる。

4 同じ写真を使いながら、文章の異なるフォトストーリーを比べ読みして、読み手に考えさせる文章の書き方の工夫について考える。

[手順]

- 1) [A], [B]のフォトストーリーを、マーキングをしたり、書き込みをしたりしながら読む。
- 2) [A], [B]を比べてどちらが当てはまるか、いくつかの項目について判断する。

5 ハイน์が写真に組み合わせた文章の工夫や、ワークシート③で比べ読みして分かったことを参考にして「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」を3つにまとめる。(個人→グループ→学級全体)

ワークシート③

ワークシート②

◆参照する教科書本文を電子黒板に映し出し、2～3名の生徒を指名して写真から分かる情報と分からない情報に色分けをしてマーキングさせる。

○黒板に張られたハイน์の文章の書き方を参考にするよう注意を促す。

◆教材提示装置で2～3作品紹介して文章の書き方の工夫を確かめさせる。

○[A]は読み手に考えさせるように工夫をして書いた文章を、[B]は書き手の意見を直接的に書き、問題となる行為を激しく批判する文章を用意する。

◆ワークシート③を電子黒板に映し出し、反感を感じる表現や心に残る表現の1～2カ所にマーキングをしてみせる。

○ワークシート③にある判断項目について[A], [B]どちらが当てはまると判断したか挙手で確認する。

○生徒が考えたポイントを次の3つに整理する。

《板書例》
「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」
①写真だけでは伝わらない必要な情報を書く。
②自分の意見を直接書かないで、読み手に考えさせるような問い掛けをする。
③印象に残る表現技法(比喩や反復等)を使う。

[言①] フォトストーリーという表現方法の特徴を理解して書いている。(イオ)

【ワークシート②】

ハイน์が書いた文章の工夫を生かして、写真に組み合わせる文章を書いている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。

文章を書いていない生徒については、教科書本文に、写真の説明に当たる部分を枠囲みさせ、電子黒板を見てマーキングさせる。マーキングした「写真にない情報」を文章に書くように指示する。

<p>まとめ</p>	<p>6 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。</p>	<p>学習計画表 ワークシート④⑤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。 ○ワークシート④⑤を提示して、自分の作るフォトストーリーについてイメージをもたせる。 ○新聞や雑誌の切り抜きなどの写真も使ってよいことを伝える。 	<p>◇「学んだこと・感想」の欄に、「読み手に考えさせる文章の書き方のポイント」から、よく分かったと思うものを1つ選んで書かせる。</p>
------------	---	---------------------------	--	---

6-3 3/4時の指導計画

(1) 目 標

題名を決めて材料を集めながらフォトストーリーを作ることができる。

(2) 展 開 ※ 表中のゴシック体で書かれた学習活動は、本時における評価の場面を表す。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表	○前の時間に学んだことを 2～3名に発表させる。	
<p>題名を決めて材料を集めながらフォトストーリーを作ろう。</p>				
展 開	<p>2 ワークシート④の写真や自分が用意してきた資料から写真を3枚選び、読み手に考えさせたいこと決める。</p> <p>[手順]</p> <p>1) ワークシート④の構想メモを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・題名 ・読み手に考えさせたいこと <p>・使う写真(3枚)</p> <p>・文章の工夫</p>	<p>ワークシート④ 自分が用意した資料</p> <p>ワークシート②</p>	<p>○3組の写真と文章の組み合わせで1つのフォトストーリーを作ることを確認する。</p> <p>○「学校をより良いものにしていくために、全校生徒の心を動かそう」というテーマで生活を振り返らせ、題名や読み手に考えさせたいことを決めさせる。</p> <p>◆3枚の写真を試行錯誤して選ぶ過程を、電子黒板を使って実演してみせる。このことにより、写真を選ぶときには、フォトストーリーの全体構成を考える必要があることを確かめさせる。(構成や展開については既習事項を想起させる。)</p> <p>○文章の工夫については既習事項を想起するように促す。</p>	<p>◇「読み手に考えさせたいこと」を書いていない生徒には、生徒の学校生活から推し量って、問題意識をもちそうなことを例示し、思いつくことを言わせる。それらの中から書けそうなことを選ばせて書かせる。</p> <p>◇写真を選ぶことに時間が掛かっている生徒には、「読み手に考えてほしいこと」に応じて写真を1～2枚ほど一緒に選ぶ。</p>

<p>3 ワークシート④をグループで見せ合い、参考にしたり質問をし合って内容を確かなものにしたりする。</p>	<p>ワークシート⑤</p>	<p>○目的と読み手を意識して表現する内容を考えているか確かめさせる。</p>	
<p>4 写真に組み合わせる文章を読み手に考えさせるように工夫して書いてフォトストーリーを作る。</p>		<p>◆ワークシート②に書いてまとめた「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」を電子黒板に映し出し、評価の目安を共有する。</p>	<p>[関①] フォトストーリーという表現方法に関心をもち、その方法を生かして自分の考えを書こうとしている。</p>
<p>[手順] 1) 選んだ3枚の写真をワークシート⑤に貼る。</p>	<p>はさみのり</p>	<p>《電子黒板》 「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」 ①写真だけで伝わらない必要な情報を書く。 ②自分の意見を直接書かないで、読み手に考えさせるような問い掛けをする。 ③印象に残る表現技法(比喩や反復等)を使う。</p>	<p>【ワークシート⑤】【観察】</p>
<p>2) 「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」を押さえて写真に組み合わせる文章を書く。</p>	<p>ワークシート③</p>	<p>○ワークシート③の作品Aが「十分満足できる」状況(A)の作品、作品Bが「おおむね満足できる」状況(B)の作品であることを確認させる。 ○「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」にある「③印象に残る表現技法(比喩や反復等)を使う」に応じるために、学習の手引き「読むこと」④「表現の工夫に強くなる！」</p>	<p>3枚の写真を貼り、「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」を参照しながら文章を書いている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p>
<p>3) 推敲する。</p>	<p>学習の手引き「書くこと」③「推敲に強くなる！」</p>	<p>○推敲のポイントをまとめた学習の手引き「書くこと」③「推敲に強くなる！」を活用させる。 ○評価の目安となる、「読み手に考えさせる文章を書</p>	<p>1枚1枚の写真について「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」を1項目ずつ押さえて文章を書かせる。「①写真だけで伝わらない必要な情報」については写真では分からないことについて質問をして書かせる。「③印象に残る表現技法(比喩や反復等)については学習の手引き「読むこと」④を活用し、いくつかの例を示して書かせる。</p>

			くためのポイント」が押さえられているかどうかを確かめさせる。	
ま と め	5 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。また、次時の「目標」を確かめ、見通しをもつ。	学習計画表	○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。 ○文章を書くときに気を付けたことや、苦勞したことなどを書かせる。	

6-4 4 / 4時の指導計画

(1) 目 標

フォトストーリーを読み合って、内容や書き方について意見を出し合うことができる。

(2) 展 開 ※ 本時における評価は、授業終了後に回収したワークシート⑤によって行う。

	学習活動	教材資料	○指導上の留意点 ◆ICT活用の場面	評価規準と評価方法 ◇形成的評価による個別指導 Cの状況の生徒への手立て
導 入	1 前時の学習を振り返り、 本時の目標を確かめる。	学習計画 表	○前の時間に学んだことを 2～3名に発表させる。	
フォトストーリーを読み合い、内容や書き方について意見を出し合おう。				
展 開	2 交流シートの使い方を 知り、フォトストーリーの 読み方と交流の仕方を 確かめる。 3 フォトストーリーを 読み合い、内容に対する 自分の考えと、 フォトストーリーを 書いた人の表現の工夫 について気付いたこと を書く。 [手順] 1) 友達の作品を読み、 内容について考えた ことを交流シートに 書く。 2) 友達の作品の題名を 予想して書く。	交流シート ワークシート⑤ 記入例1 ワークシート⑤	◆交流シートを電子黒板に 映し出し、記入例1を例 に取り上げて使い方につ いて説明する。 ○友達のフォトストーリー を読み合った後、交流シ ートも読み合うことを確 認する。 ◆友達の作品を読んで評価 するポイントを電子黒板 に映し出しておく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 《電子黒板》 「友達の作品を読んで評 価するポイント」 ①写真だけでは伝わらな い必要な情報を書い ている。 ②自分の意見を直接書か ないで、読み手に考えさ せるような問い掛けを している。 ③印象に残る表現技法(比 喩や反復等)を使ってい る。 </div> ○交流シートを読み合う際 に書き手の付けた題名と 自分が予想した題名が合 っているかどうか確かめ 合うことを知らせる。	◇「友達のフォトストー リーを読んで、あなたが考 えたこと」を書いていな い生徒には、写真に写っ ている情報や文章に書か れている情報を書かせ、 そのことについてどう思 ったか書くように促す。

	<p>3) 「友達の作品を読んで評価するポイント」に従って評価する。 ◎…よくできている ○…できている △…もう少しである</p> <p>4) 「文章の書き方について気付いたこと」を書く。</p>	<p>学習の手引き「読むこと」④ 「表現の工夫に強くなる！」</p>	<p>○「友達の作品を読んで評価するポイント」や学習の手引き「読むこと」④「表現の工夫に強くなる！」を参照させながら、文章の書き方の工夫に気付かせ、その効果を考えさせる。</p> <p>○活動はグループ単位で行うが、合図を教師が一斉に出す。 [指示] ・ワークシート④を用意。 ・交流シートを用意。 ・1番の人、題名発表。 ・交流。 (グループのメンバーが全員発表し終わるまで繰り返す。)</p> <p>○交流シートの自分の作品についての欄に書かれているところを読ませる。</p>	<p>◇記号による評価が滞っている生徒には、それぞれの項目について友達の作品がどうなのか口頭で聞き取り、該当する評価の記号を書かせる。</p> <p>◇「文章の書き方について気付いたこと」を書いていない生徒には、学習の手引きの参照箇所を示して友達の作品と対照させ、表現の工夫に気付かせる。効果については学習の手引きに書いてあることを読ませて書かせる。</p> <div data-bbox="1123 1077 1469 1395" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[書①] 自分の伝えたいことを相手に効果的に伝えるために、写真に組み合わせる文章を、読み手に考えさせるように工夫して書いている。 【ワークシート⑤】</p> </div> <div data-bbox="1123 1424 1469 1659" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「読み手に考えさせる文章を書くためのポイント」の①③を満たしている状況を「おおむね満足できる」状況(B)と判断する。</p> </div> <div data-bbox="1123 1682 1469 2042" style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>生徒が何を書こうとしているのかを対話によって聞き取り、具体的な書き出しや表現の工夫についてアドバイスをする。書こうとする内容について答えることに時間が掛かる生徒に対しては、生徒</p> </div>
<p>4 写真と文章の組み合わせ方や表現の工夫についてグループで話し合う。 [手順]</p>	<p>1) グループで、それぞれのフォトストーリーの作者がワークシート④に書いた自分の作品の題名を読み上げ、それを聞いた読み手が、予想した題名と合っているかどうかを答え、違った場合はどのように違うかを伝え合う。</p> <p>2) 自分の作ったフォトストーリーを読んで友達が考えたことを読み、自分が考えさせたかったことを考えさせることができたかを確かめる。</p> <p>3) 自分の作品に対する友達の評価や「文章の書き方について気付い</p>	<p>ワークシート④ 交流シート</p> <p>ワークシート⑤</p>	<p>○活動はグループ単位で行うが、合図を教師が一斉に出す。 [指示] ・ワークシート④を用意。 ・交流シートを用意。 ・1番の人、題名発表。 ・交流。 (グループのメンバーが全員発表し終わるまで繰り返す。)</p> <p>○交流シートの自分の作品についての欄に書かれているところを読ませる。</p> <div data-bbox="762 1509 1091 1733" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>《板書例》 「交流シートを読んで確認」 自分が読み手に考えさせたかったことを、読み手に考えさせることができたか。</p> </div> <p>○自分の文章の書き方について考えさせられたことを一言ずつ述べさせ、そ</p>	

	たこと」を読んで、自分の書き方を振り返り、交流する。		の友達の発言に対して質問や意見、感想を述べさせる。	の実生活から問題意識をもちそうなことを押し量ってこちらから提示し、友達の作品を参考にさせるなどして書かせる。
まとめ	<p>5 学習計画表の「振り返り」の欄に色を塗り、「学んだこと・感想」を書く。</p> <p>6 学習の成果について友達の考えを聞き、共有する。</p> <p>7 単元の学習を振り返り、身に付いたと思う力を学習計画表に書く。</p>	学習計画表	<p>○目標に応じて学習内容がどうであったか考えて振り返るよう促す。</p> <p>○学習の成果で本人が気付いていない点については教師が指摘して評価する。</p> <p>○2～3名の生徒に発表させることで単元の目標についての学習の成果を共有させ、教師の評価を伝える。</p> <p>○言語活動への個人、グループ、学級での取り組みについて具体的に振り返らせるとともに、身に付けた力をできるだけ具体的に書くように促す。</p>	